

私たちの「働き方」について

2008年10月2日、私たちの仲間（社員）の突然の悲報に遭遇しました。

私たちには創業以来の悲しい出来事であり、全社員が悲嘆にくれ、謹んで哀悼の意を抱きました。人の「命の尊さ」を痛感し、このような悲しいことが二度と起きないようにしなければならぬと誓いました。それはひとえにこれまでの私たちの働き方を見直すことでもありました。

その後の経過を記します。

2010年6月8日付けで、千葉労働基準監督署が、亡くなられた仲間のご遺族に対して遺族補償一時金などの保障給付をすることを決定しました。また、10月20日、ご遺族から弊社に対する訴状が届き、本日第一回口頭弁論が行われました。

ご遺族からの訴状を拝見し、あらためて全社員一同哀悼の意を表します。現在、裁判の過程にあるため、具体的な内容について触れることはできませんが、ご遺族の気持ちに込め、誠心誠意対応していきたいと考えておりますし、私たちが体験した悲しい思いと教訓は必ず生かしてまいる所存です。

ご遺族の方々をはじめ、弊社に関わる皆様に私たちの考え方をできるだけ早くお伝えしたいと思いここにご報告する次第です。

創業以来、弊社は、24時間休むことのない気象を相手に、ベンチャー精神に溢れたスタッフの献身的な努力に支えられて、気象サービスの可能性を広げてまいりました。

とくに台風や地震など生死に関わるような自然現象が発生した際には、あたかも急患を前にした医師が勤務時間を超え治療にあたる確固たる信念と精神に似たものが弊社にも存在しています。このような働き方と取り組み方は気象人の「使命感」として捉えられ、結果としてそれが社風となってきました。

しかし、このたびの出来事を契機に、次の1, 2のようにこれまでの「働き方」について見直しをしており、また今後、働く仲間の諸条件を一層加味しながらさらなる改善の努力をしていきます。

1) 働く時間について ～自己申告とカードによる時間管理～

これまでは、自己申告制のみで働く時間を管理してきました。これからは、自己申告をベースにしながらも、ID カードによる入退出を記録し、より客観的な勤務状況の把握や健康面の配慮を全社ベースでできるようなシステムの導入を予定しています。

2) 働くスタッフの心のケアについて ～こころの相談室～

3年前に体調管理、メンタルヘルスの相談窓口として、社外の産業医を含む衛生委員会を設置し、年々スタッフの健康へのサポートを拡充しています。今後は、メンタルヘルスに関するリーダーをはじめとする研修の開催や外部専門家との連携を強化します。

「船乗りの命を守りたい」

15名の尊い命が奪われた1970年1月の海難事故をきっかけに弊社は誕生しました。

この精神は全社員に受け継がれております。しかし、今回の出来事を契機に、サービスをご利用いただく皆様も、働くスタッフも、ともに幸せになる会社を目指して、社員全員でこの思いを共有するとともに、誠心誠意取り組んでいくことをここに宣言いたします。

2010年11月30日
株式会社ウェザーニューズ
代表取締役 草開 千仁